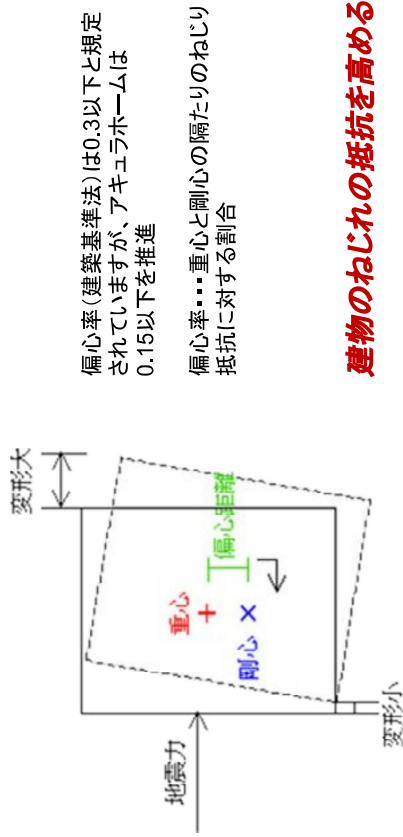
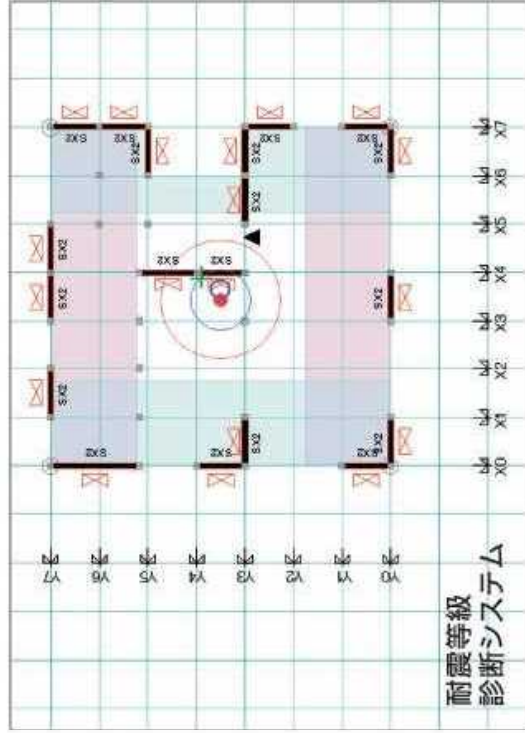


耐震設計。

「耐震等級3」を満たしているか、一棟一棟壁量と偏心率診断を実施。



建物のねじれの抵抗を高める



※建築基準法施行令第46条第4項の規定に基づき、必要壁量と存在壁量の比較検討とバランスのチェックを行い「耐震等級3」を満たしているかを確認。

壁倍率にだけ着目せず、耐力壁の位置やバランスを一番に考えています。ただ壁倍率が高いだけではダメ。その位置が重要になります。

実物大耐震実験



【1回目】
■阪神淡路大震災
■震度6強
■マグニチュード7.3
→損傷なし

【2回目】
■新潟県中越震災(川口町)
■震度7
■マグニチュード6.8
→損傷なし

【3回目】
■新潟県中越震災(小千谷市)
■震度7
■マグニチュード6.8
→損傷なし

2005年3月、加盟先ジャープネット(アキュラホーム)では大林組技術研究所にて、住宅業界やマスコミ関係者を約00名集め、実物大の建物を使った耐震実験を実施。建物にはタンスなどの生活荷重として約3トンのウェイトを配置し、実際の生活状態をつくり出しました。この実験棟に阪神淡路大震災や新潟中越地震などで記録された過去最大級の地震波を連続3回再現。震度7クラスの激震を連続で受けたにもかかわらず、接合部のゆがみや金物の変形、木材の破損など構造体の損傷もなく、一部のクロスを張り替えるだけで再び住むことが可能となるなど、極めて高い耐震性が実証されました。

耐震等級 “最高ランク”の強い構造体。



実験後、石膏ボードを外し、構造躯体を確認したが全く異常はなかった。

